

ベンチャー企業で生き残るために

C班 杉本 高橋 玉村 横山

〈はじめに〉

私たちは、時代によって変化しつづけ、経営者と社員の距離が近く、組織としての一体感が持ちやすいベンチャー企業に着目し、社員をまとめる方がどのような方なのか気になったため、日本コンピュータ・ダイナミクス株式会社と株式会社アグリゲートの2社にインタビューをさせていただきました。

〈インタビュー概要〉

【日本コンピュータ・ダイナミクス株式会社 下條 治様】

二十歳の頃は住み込みで新聞配達のアルバイトをしていて、大学1年生の時は単位がゼロだった。アルバイトに明け暮れる一方、絵画教室に通っていたり趣味のカメラに力を入れていたりして、ジャーナリストになることを夢見たりしたが、現実的に考えて断念したという。

下條さんのお話を伺って私たちが得た学びは以下の4点である。

①人と人との繋がり

下條さんは社員一人一人との繋がりをとても大事にされていて、様々な人がいることをよく理解するべきとおっしゃっていた。その考えは「君は君なり、我は我なり、されど仲良き」「和而不同」の精神からきており、この言葉は下條さんの座右の銘でもある。

②自分の思いを伝える

一人一人の個性を大切にしながらも、自分の本音しっかり部下に伝えることを常に意識しているとおっしゃっていた。

③挑戦することを恐れないこと

失敗することを恐れずにとりあえず挑戦していかないと成長できないし、失敗したとしてもその後悔が経験となり成長できるとおっしゃっていた。

④変化を求める

同じことを続けていてもいつか不要になるから、変化を求めることが大切だと熱く語っていただいた。

【株式会社アグリゲート 吉田 誠様】

二十歳の頃は、喫茶店やガソリンスタンドなど様々なアルバイトを経験していて、商業英語とゴルフのサークルに入り、さらに国際経済のゼミに所属し、と忙しい毎日を送っていたという。勉強とアルバイトとサークルのバランスをうまくとれていたと振り返っていた。また、二年生のときイギリスに留学しており、海外留学は経験するべきとおっしゃっていたが、海外に目を向けて世界を広げるだけではなく、日本人は外国人とくらべて、母国の歴史・文化などの知識が少なすぎるため、日本のことを学ぶことも大切とおっしゃっていた。

吉田さんのお話を伺って私たちが得た学びは以下の3点である。

①自分で動くこと

何事にも自分で話を聞きに行ったり自分で調べたり、とにかく積極的に自分で動くことが大切とおっしゃっていた。

②人生の裏テーマ

仕事をするうえで、相手に興味を持って相手と関わらないと、仕事だけの関係はいずれなくなってしまうため素直に相手に興味をもって接するべきであるという。

③自分を生かせる場

就職活動での企業選びではパンフレットの表面的な所だけでなく、企業の本質を見極めて、自分の価値観に合う居心地のいいところを選ぶことが大事とおっしゃっていた。加えて自分に「向いている」の定義とはその職場の人や環境に合うか、考えに共感できるかということだという。

〈インタビューを終えて〉

私たちが考えるお二方の共通点、つまりベンチャー企業の経営者として成功する秘訣は以下の3点です。

①人との関わり方、人と人との繋がり

お二方は、周りのヒトを大切にしながら仕事を自分の意思を念頭に置きながらも、他人を尊重し、その人に興味を持ち続けているからこそ広いコミュニティーを構築できているのだなと感じた。

②多くの経験をする

失敗や後悔をたくさんすることで人生の糧となり、それが自分の人生のためになるので大学時代にできるだけ多くのことを経験するべきと考えた。

③今の仕事への考え方

お二方は今自分がやっている仕事に誇りをお持ちになっていた。しかし同じことをし続けても会社は大きくなりたいため、現状に満足せず、常に変化を求めて考えながら、挑戦し続けるべきだとおっしゃっていた。

〈おわりに〉

私たちはこの二十歳の頃の活動を通して、まだまだ未熟であることを痛感しました。自分たちで企業にアポイントを取り、自分たちでインタビューを行い、自分たちでレジュメ、パワーポイントを作るといった、自分たちが率先して動くということが大変であり、こんなにも難しいことなのかと思いました。その機会をゼミの登竜門企画として、一年次から経験できたことは今後の自分に必ず生きてくると思います。そしてこの活動を通して、インタビューさせていただいたお二方のお話にもあったように、さらに多くの経験や人との繋がりを大切にしながら、この大学時代をおくりたいと思いました。学生生活の残り約三年間、学生ならではのことを全力で楽しみつつ当たり前のようなことでも日々意識して時間を大切にしていきたいと強く思いました。また、本当に『好き』なものを見つけて出会うためにもいつも通りの行動をするのではなくさらに視野を広げて様々な挑戦をしていきたいと思います。最後になりますが、お忙しいなか、お時間を作ってくださった下條治様、吉田誠様をはじめ関係者の方々に深く感謝いたします。ありがとうございました。